

平成25年度学校評価結果

① 自己評価 【評価日：平成26年3月10日】

評価者・組織(名称)：運営委員会(学校評価委員会)】

分野		評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	コミュニケーション能力の育成	生徒による学習アンケート調査	言語活動を取り入れた授業や、研究授業が数多く実戦されるようになり、ポスター・セッションなどを通じて生徒の言語能力、コミュニケーション能力も次第に向上してきているが、生徒自身の意識としてはまだ自己有用感が低い傾向が見られる。 家庭学習も継続的な課題の提供により、ほぼ定着しているが一部生徒にはまだ不完全である。生き方指導をはじめ、常にキャリア教育を意識した実践が必要である。	引き続きポスター・セッションやグループ活動など言語を使った授業形態や発表会などの機会を多く持ち、生徒に成功体験を数多くさせることができ自己有用感・コミュニケーション能力の育成につながると思われる。 徹底した継続的な家庭学習の習慣をつけると共に、キャリア教育の視点を基礎に置いた総合学習・教科学習・道徳、特活の組み立てを再構築していく
		わかる授業の創造	教職員・生徒・保護者アンケート結果		
		キャリア教育の充実	地域の教育資源の活用状況		
		家庭学習の習慣化	保護者・生徒アンケート		
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践	生徒アンケート	生徒会・PTAが連携して、朝の挨拶運動などを毎月実践することができた。そのことで、次第に自然に挨拶が出来る生徒が増えつつあり、地域・保護者からも大変礼儀正しい態度が取れているという評価もいただいている。 道徳教育に関しては概ね、どの学年も計画的に取り組んでいる。今後も時間を確保し、計画的に学習する必要がある。	今後も望ましい挨拶・言葉遣いが出来るよう、生徒会やPTAの挨拶運動・声かけ運動などを充実させていきたい。 年間指導計画をきちんと立て、道徳教育の時間を確保し、行事などで代替えされないようにする。鳥丸中に欠けている徳目をきちんと注視し、年間指導計画に反映させたい
		望ましい言葉づかいの徹底	教職員・保護者アンケート		
		豊かな心の育成	人権教育・道徳教育計画の実施状況		
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	生活アンケート	基礎的な生活習慣は、学年が上がるにつれ、おそ寝おそ起きの傾向が見られる他、養護施設生徒の生活の乱れが改善されなかった。 防災教育の視点を取り入れた活動ができつつあるが、教職員自らの危機管理意識をさらに高める必要がある。	キャリア教育の充実と共に、きちんとしたライフスタイルを確立させる意識作りに取り組む。また、養護施設生徒に粘り強く関わり、生活習慣の改善に努めたい。 ワークショップ型のリスクマネジメント研修を次年度も行い、教職員自らの危機管理意識を高めていく。
		保健・安全・防災教育の実施	保健・安全・防災教育計画の実施状況		
4	学校独自の取組	小規模校・少人数の利点を活かす	教職員・生徒アンケート	小規模校ならではの修学旅行や、文化祭、体育祭などが実施でき、生徒にもその良さを実感させることができた。 伝統文化教育の中で、教科との横断的取り組みについて再構築する事ができ、方向性が明らかになった。またおもてなし集会などの中で、生徒自らの発信活動も実践できた。今後さらに取組を推進・発展させ、自己有用感の育成に努めることが課題である。	小規模校の良さを意識して、生徒自らが主体となる取組を実践していきたい。 伝統文化教育を活用した教科学習を計画的に実践し、指導案集にまとめるなどして全市に発信していきたい。また生徒も地域の主体者として積極的に発信できる姿勢を、「おもてなし集会」などを積極的に活用して育成したい。
		伝統文化教育	各種教育活動の再編成・横断的な取り組みの実施状況		

② 学校関係者評価 【評価日：平成26年3月5日】

評価者・組織：学校運営協議会】

評価結果	改善に向けた支援策
学校の雰囲気は、全体としてはとてもよい印象を持っており、地域での生徒の様子も大変良い。おもてなし集会で地域に様々なことを発信していくことは、とても良かったので、ぜひとも次年度も継続させてほしい。 学力も落ちていた雰囲気の中で伸びつつあり、より一層の発展を期待する。 小規模校のため、仕方がないことであるが、部活動の数が少なく活気が弱いように感じるので、その点にも力を注いでもらいたい。	「おもてなし集会」を各団体・地域でも紹介し、ボランティアやお手伝いに積極的に関わって頂く方を募集するため、ポスターなどを通じて広く呼びかけたい。また地域の人材を発掘すると共に、経費の軽減につながるような情報を提供したい。 地域のスポーツ少年団の活動を活発にしたり、体育振興会の活動に中学生の参加も奨励し、生涯スポーツの観点から支援していく。

総括・次年度の課題

小規模校の良さが至る所に現れ、落ちていた雰囲気の中、言語活動・コミュニケーション能力の育成が全教科で意識的に図られるなど、全校あげての学力向上の取組により、学習確認プログラムなどの結果は、全市のトップレベルに至った。ただ家庭学習などの習慣がまだ弱いので、さらに習慣作りやグループ学習について実践を進めていく必要がある。 養護施設生徒を中心に、一部生活習慣の乱れが見られ、粘り強い指導・支援が不可欠である。 伝統文化教育の方向性を全教職員が共通理解し、学校教育目標・目指す生徒像に向けて生徒を育成する、ツールとして伝統文化を活用していくこと、生徒が真に地域の主体者となり、地域に発信していく力をつけることで、自己有用感を高めていくよう指導していくことが大切である。
